

子育て支援のあり方と

滝上町の観光

第10回まちづくり審議会報告

第10回まちづくり審議会は、継続テーマの「滝上町の子育て支援のあり方」と新たに「滝上町の観光」についての協議となりました。

新たな取り組みには住民の意見反映を

▼幼保一元化について町民からの意見集約はどのように行うのか？全町的には広報等での周知しか行っていないので、周知方法を検討した方がよい。

▼認定こども園として新たに箱物を整備することで遊休施設が増えるのは町民からの理解が得られない。小児科医の導入、保育士を正職員採用とするなどソフト部分での充実を望んでいる。滝上町の教育に対する理念と指針を定めることが必要。若い保育士で臨時職員なのはなぜか？サービスを安定させるためには正職員を採用するべきで、採用できない理由はなにか？

▼新たなハード整備で多額の投資をするのであれば、しっかりとした議論をしてほしい。議員と行政だけで考えたのではだめ。

子育て

期、親子で一緒に過ごす時間は思ったより短いと思う。子どもと一緒にいる時間を大切にしたい。大変だろうけれども送り迎えを含め親子の関わりをたくさんもってもらうことが大切と思う。

▼将来的に幼稚園・保育所から小学校、中学校と統合になり、クラス替えなどもない状態になってしまふ。人間関係が固まってしまふ子どもたちの逃げ場がないなど問題もある。

▼アンケートを見ると現状に満足している。新しい試みを理解してもらえないのか不安な部分もある。保育所の施設が老朽化しているのであれば、安全面は今すぐにも修繕が必要なる部分があるのではないか。

また今後発行される広報では「子育て支援・幼保一元化」について意見を求める旨のお知らせを参ります。

必要

な人員配置については本来正職員を雇用するべきでありますが、滝上町の財政は貯金をくずしている厳しい状況であります。保育士に臨時職員が多いのは人件費の抑制と、また、数年前から幼保一元化に向けての検討中であつたので体制が固まるまで正職員の採用を行っていないかつ経緯もあります。議会との協議をするための原案を担当課が連携して作成しています。その前段として審議会の意見を聞かせていただきました。今回の計画には町民からの意見も広く聞かせてもらおう方針を進めています。幼保一元化は滝上町の子どもの達のために施設整備を図ることが目的です。地域や保護者の都合にも増して、将来の滝上町を背負って立つ子どもへの「育ち」を優先して考えなければならぬことを再度共通理解したと考えています。」と話しがありました。



幼稚園・保育所の交流会
8月26日

近藤副町長からは「地域住民の皆さんへは、地域懇話会での周知を予定しています。」



滝上町の観光を考える

◆事務局からの説明『滝上町の「観光」では芝ざくらを中心として取り組んでいる。近年は体験観光の充実を図り、渓谷遊歩道が見直されている。ガイドの人材養成も進んでいる。』

体験

観光（ガイド）、渓谷遊歩道については

あの程度でお金（産業）になるのかという町民の意識もある。今後どのように進めていくことを考えているのか？

▼体験観光の考え方は良いこと。それに「食」を加える。

▼この夏に「ホテル渓谷」の昼食（バイキング）を食べに行った際にメニューの一つで「じゃがいも」があった。がメニューには「美瑛産」と明示されていた。滝上町でも生産している作物なのに地元産を提供しないのはいかがなものか。

▼ホテル渓谷の料理長は地元産の食材にこだわっている。食材を直接農家より調達したこともあったが、地元商店の流通の関係もあってそうなっているのではないか。

▼地元産の食材を仕入れることができるとは、仕組みづくりを行うのが商工会や観光協会、行政ではないか？

▼観光客は地場のものを求めている。よりよい観光を考えているのであれば町内各商店は地元の商品を取り扱うようにしていかなければならないのではないか。

付加価値

をつける意識を持つことが必要。

より高いもの（目標）を見据えなければならぬ。お客さんはおいしいのは当然と思っている。プラス「食」に対する付加価値やストーリーが必要。現状より一つ上にあるかわりを感じる「観光」を目指すことが必要。

▼町内の「まつり」について、商工会は「夏まつり」、観光協会は「芝ざくらまつり」、と役割分担がされている。みんなだままとって一つのものに向かって「ガンバロウ！」的な気質がない。「聞いていない」けどどうなっているんだという話が往々にしてある。▼観光とは町に光を与えるものだと思う。

事務局からの説明

『エコ・癒しなどの考え方は廃れていかなければ。これらの考え方は「町」にあるものが観光資源であるという考え方です。ガイドについても最初は一人100円で渓谷遊歩道を案内していました。研修会などを重ね現在は観光バス1台5千円で観光協会が案内をしています。遊歩道の良さ、ガイド付きの散策の認知が高まればより高い金額での設定ができると思います。陽殖園も一人2千円で園内のガイドを行い好評を得ています。』

滝上町の観光業は観光客にお金を落とさせる手法が確立されていない。芝ざくらの入り込みは8万人、お客さんにもう千円余分に使ってもらうことを考えなければならぬのではないのでしょうか。

ホテル

渓谷の食材は、原則地場のものを食材に使うこととしています。時期や仕入れの関係だと思えますし、ホテル渓谷には地域の商工業に貢献する役割もあります。』

近藤副町長からは「駄目を拾い上げて駄目なところを改善すれば良くなるという改善の方法があります。滝上町の観光でここは駄目だと思うことは何ですか？」と意見を求める提案があり、以下の様にされました。

・春の芝ざくらまつりで終わっている、四季折々に行ってみたい、食べてみたいと思う観光が必要。PRには口コミを活用する。
・童話村構想はどうなったのか？
・道の駅2Fの活用
・芝ざくらの植栽 痛んでいく芝ざくらに先手は打てないのか
・滝上公園の階段の修繕
・現在の登り口の見栄えが悪い、滝上公園の出入り口を逆にしてはどうか。低床バスが多くなってきた腹がつかえるという話もある。

これらの意見が出されたところで、時間となり、「観光」と「童話村構想」について次回以降のテーマとしたいとして閉会となりました。